

2002年3月期 決算説明会資料

2002年4月25日

高付加価値製品の市場投入で半導体不況を乗り切る
～2003年3月期 業績目標の達成に向けて～

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

取締役社長 樋口 紀昭

【お問合せ先】

人事総務本部 総務部副部長 芥川 達哉

TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-7123

E-mail:akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com

<目次>

. 03.3期 業績目標	
売上高 7,870億円 営業利益 108億円	1
. セグメント別業績目標	
03.3期 ライフサイエンス・先端産業部材・関連会社が好調見通し	2
. セグメント別戦略説明	
<電子デバイスシステム> 03.3期は減益、04.3期以降業績回復を狙う	3
【03.3下期 業績回復】03.3下期の回復に明るい兆しあり	4
<ライフサイエンス> 高付加価値製品の伸びにより、利益拡大見込み	5
【バイオ分野への取り組み】伸長著しいプロテオーム/ゲノム市場に集中	6
【検体検査装置】モジュラーシステムの高付加価値化で需要喚起	7
<先端産業部材> オプトエレクトロニクス部品の回復により、03.3期は増益を目指す	8
<情報エレクトロニクス> 半導体に回復の兆し、情報家電機器が引き続き好調	9
<連結子会社> 日立計測器サービスの高収益経営が業績に貢献	10
【日立計測器サービス】保守・サービス業務により、安定的収益を確保	11
クローズアップ	
. 主要製品説明	
<測長SEMの概要>	12
<電子線描画装置(EB)の概要>	17
<エッチング装置の概要>	22
<検体検査装置の概要>	23
<設備投資等の動向>	28

【報告算出基準】

	01.3期	02.3期		03.3期
旧・日製産業 【事業統合承継会社】				
旧・日立製作所 【計測器G・半導体製造装置G等】	×	(上期) ×	(下期)	

- 【注】1. 01.3期は、旧日製産業のみの数値
 2. 02.3期は、01.10の事業統合により
 下半期のみが統合後の数値
 3. 03.3期は、通期で統合後の数値

. 0 3 . 3 期 業績目標

< 03.3期 業績目標 [連結ベース] >
03.3期 売上高 7,870億円 営業利益 108億円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
01.3期	8,487億円	147億円	164億円	77億円
02.3期	7,383億円	99億円	103億円	55億円
03.3 中間期	3,760億円	45億円	44億円	18億円
03.3期	7,870億円	108億円	106億円	56億円

・セグメント別業績目標

< セグメント別業績目標 >

03.3期 ライフサイエンス・先端産業部材・関連会社が好調見通し

	01.3		02.3		03.3予	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
電子デバイスシステム	1,006	33	979	18	955	3
ライフサイエンス	421	5	549	17	680	26
先端産業部材	2,432	36	1,872	0	1,834	8
情報エレクトロニクス	1,939	21	1,711	13	1,679	11
単独ベース	5,798	95	5,111	48	5,148	48
連単差額	2,689	52	2,272	51	2,722	60
連結ベース	8,487	147	7,383	99	7,870	108

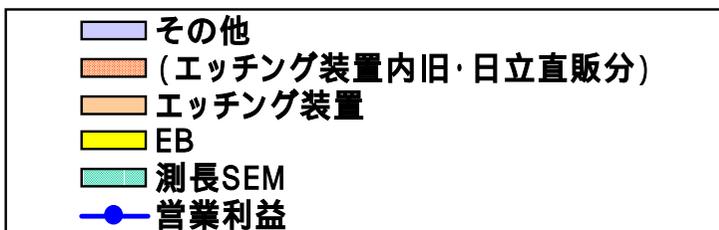
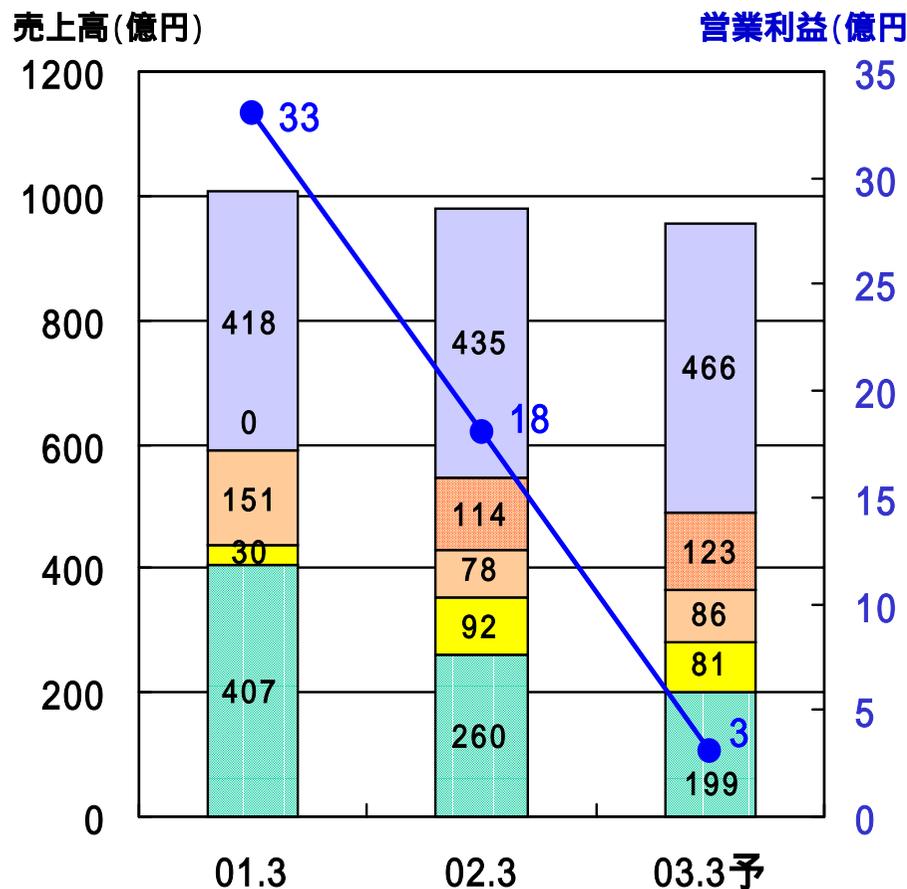
(単位:億円)

1. 電子デバイスシステムは、03.3期までは減益予想
2. ライフサイエンスは高付加価値製品の投入により堅調
3. 先端産業部材は、オプトエレクトロニクス部品で増益を目指す
4. 連結ベースでは、日立計測器サービスの利益が貢献

・セグメント別戦略説明

< 電子デバイスシステム >

03.3期は減益、04.3期以降業績回復を狙う



1. 半導体不況の影響で測長SEMとEBの売上高は、260億円から199億円と23%、92億円から81億円と12%減少する見込み

2. エッチング装置は、旧・日立直販分が通年で寄与するため、192億円から209億円と9%増加する見込み

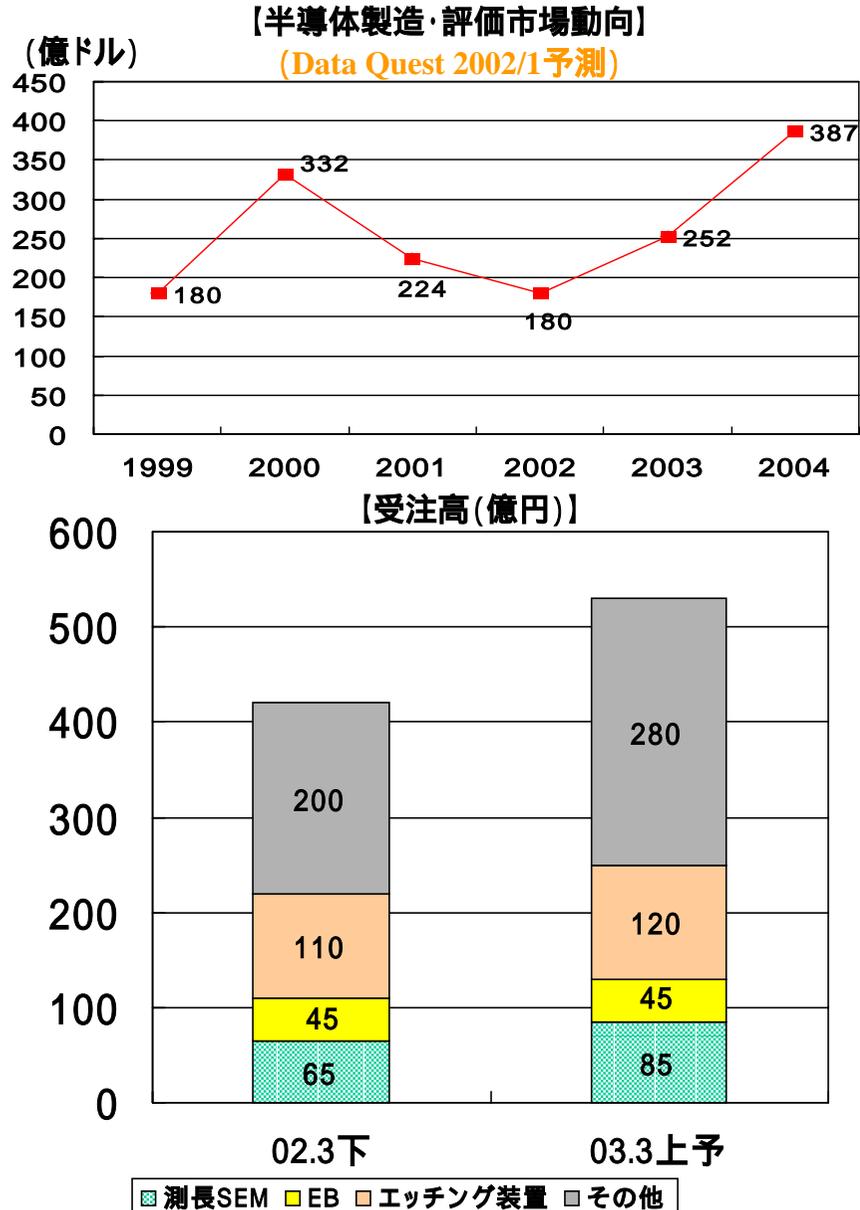
3. 営業利益は、減少するものの下期からの回復により黒字を確保する見込み

P12参照:測長SEM P17参照:EB(電子線描画装置)

P22参照:エッチング装置

< 03.3下期 業績回復 [電子デバイスシステム] >

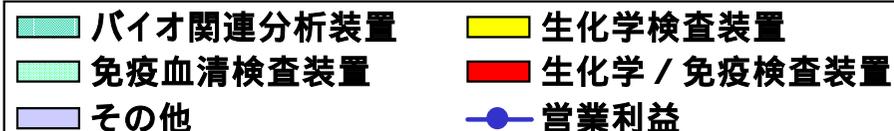
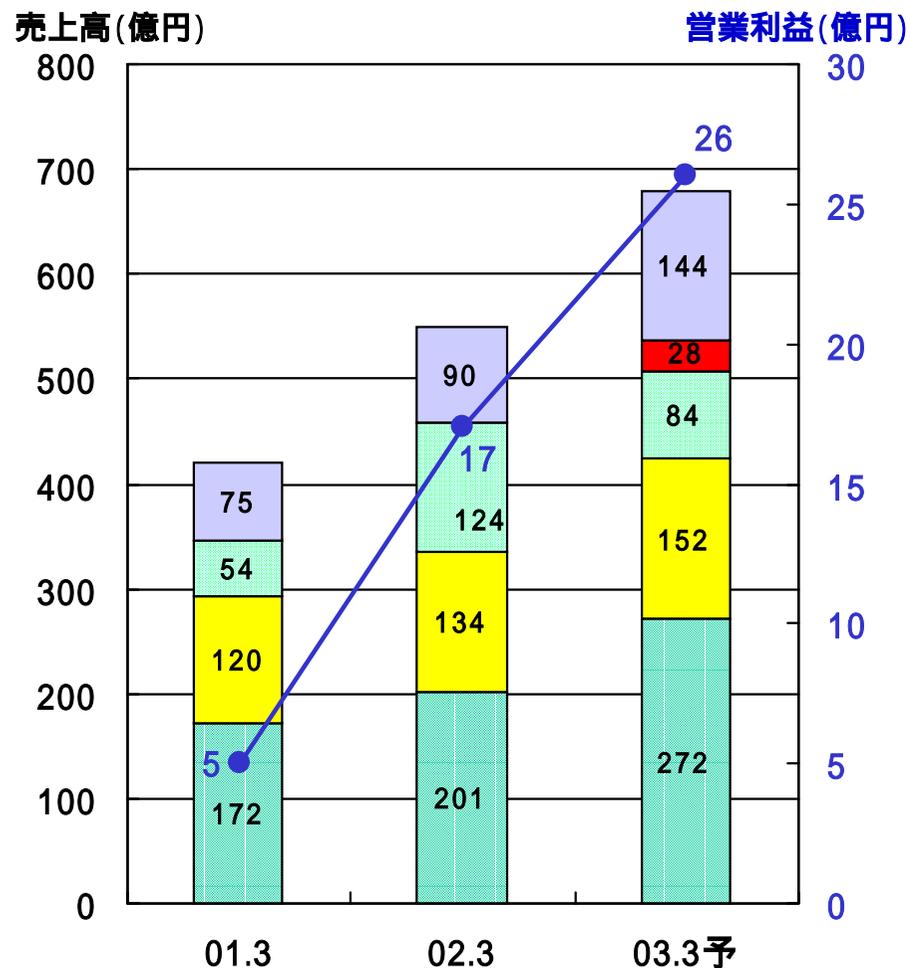
03.3下期の回復に明るい兆しあり



1. 半導体製造・評価市場規模は、金額ベースで02年が底。03年より本格回復の予測
2. 測長SEMの受注高は、引合いが増加していることから02.3下期65億円から03.3上期85億円、31%増を予想。
3. 100ナノ対応の次世代マスク用EBを4月に市場投入することにより、上期45億円の受注予定
4. エッチング装置の受注高は、メタル機から成長分野の絶縁膜機への重点シフトにより、02.3下期110億円から03.3上期120億円を予想
5. 受注高は、02.3下期420億円から03.3上期530億円へと26%増加の予想

<ライフサイエンス>

高付加価値製品の伸びにより、利益拡大見込み



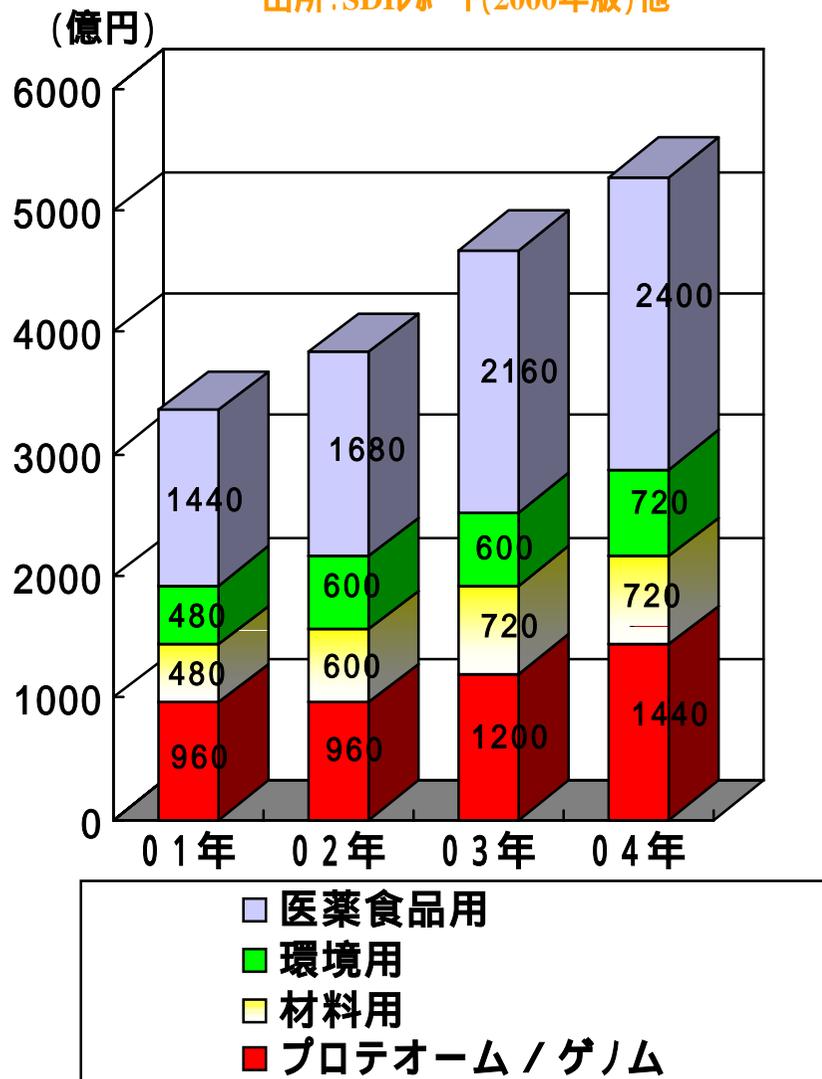
1. プロテオーム(蛋白解析)市場が伸長する中、バイオ関連分析装置(MS、DNAシーケンサ、NMR)を拡販し売上高 272 億円、35% 増の見込み
2. 業界で初めて生化学検査装置と免疫血清検査装置を組み合わせたシステムを投入し、初年度売上高 28 億円を目指す
3. 小型生化学モジュールの投入により、生化学検査装置は売上高 152 億円、13% 増を目指す
4. 技術優位性のある製品を投入し、増益を図る

P23参照:生化学検査装置、免疫検査装置 = 検体検査装置

< バイオ分野への取り組み [ライフサイエンス] > 伸長著しいプロテオーム/ゲノム市場に集中

【世界市場規模(バイオ)】

出所:SDILレポート(2000年版)他



1. プロテオーム・ゲノム市場は世界的なポストゲノム計画の高まりから伸長率拡大予測 (01～04年平均伸長率25%)

2. 米国企業とのアライアンスによるDNAシーケンサのOEMビジネスの拡大

3. ブルカー社製NMRは、需要拡大が見込まれる公的研究機関に集中営業をかける。売上高は25億円から54億円へ倍増計画

4. 自社・他社の高度な技術を生かした高付加価値製品の販売により、利益増を見込む

< 検体検査装置 [ライフサイエンス] > モジュラーシステムの高付加価値化で需要喚起

1. モジュラーシステムにより装置ユニットを組み合わせて、顧客の検査処理の多さ、検査室の大きさに応じたシステムを販売

生化学モジュラー(コレステロール、肝臓病等の検査用)

免疫血清モジュラー(感染症、ホルモン等の検査用)

2. 医療費抑制政策により顧客の効率化ニーズが高まる中、顧客セグメント別にニーズに応え新製品投入、売上増

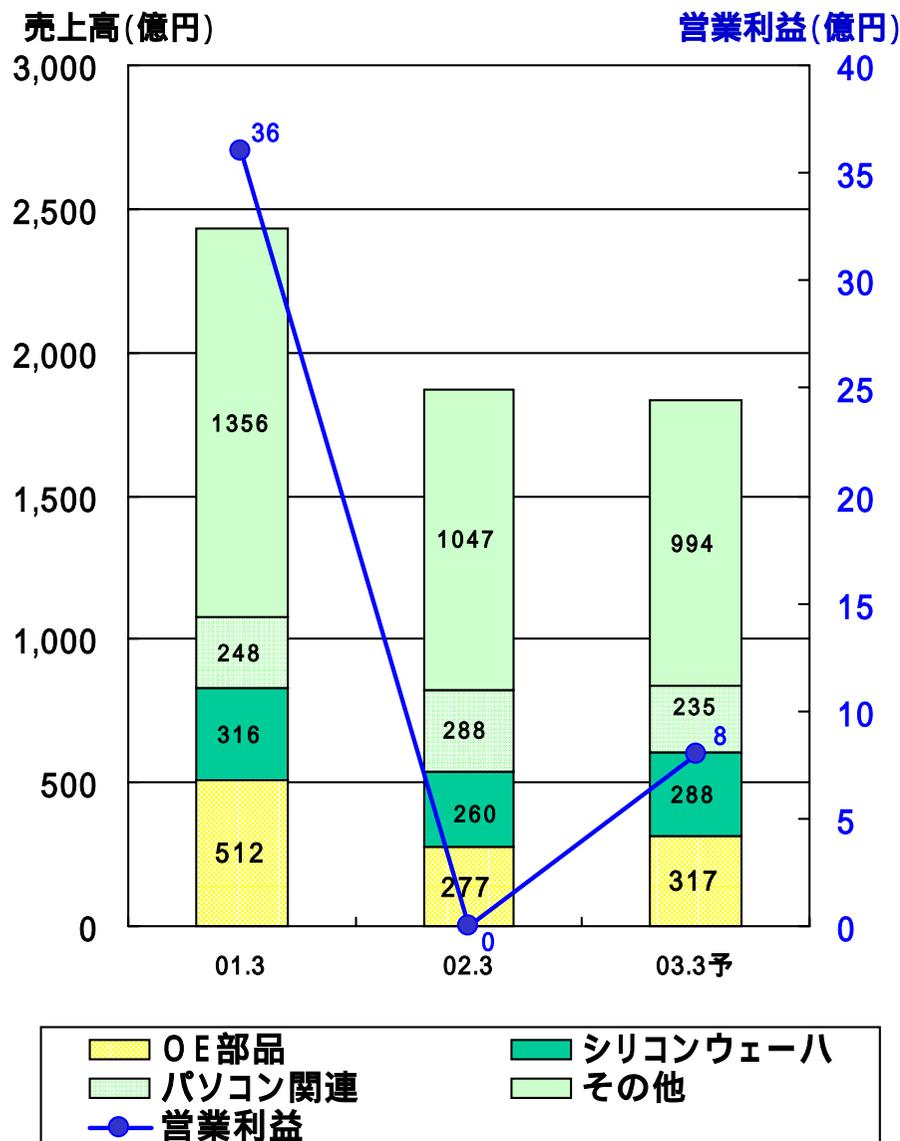
大病院向けに、生化学と免疫血清検査装置を統合したシステムを投入、生化学と免疫検査を一挙に効率化

中小病院向けに、小型化した生化学モジュラーを投入

3. 従来のモジュラーシステムに加え、統合型 / 小型化モジュラーシステムという高付加価値製品の投入により利益増

< 先端産業部材 >

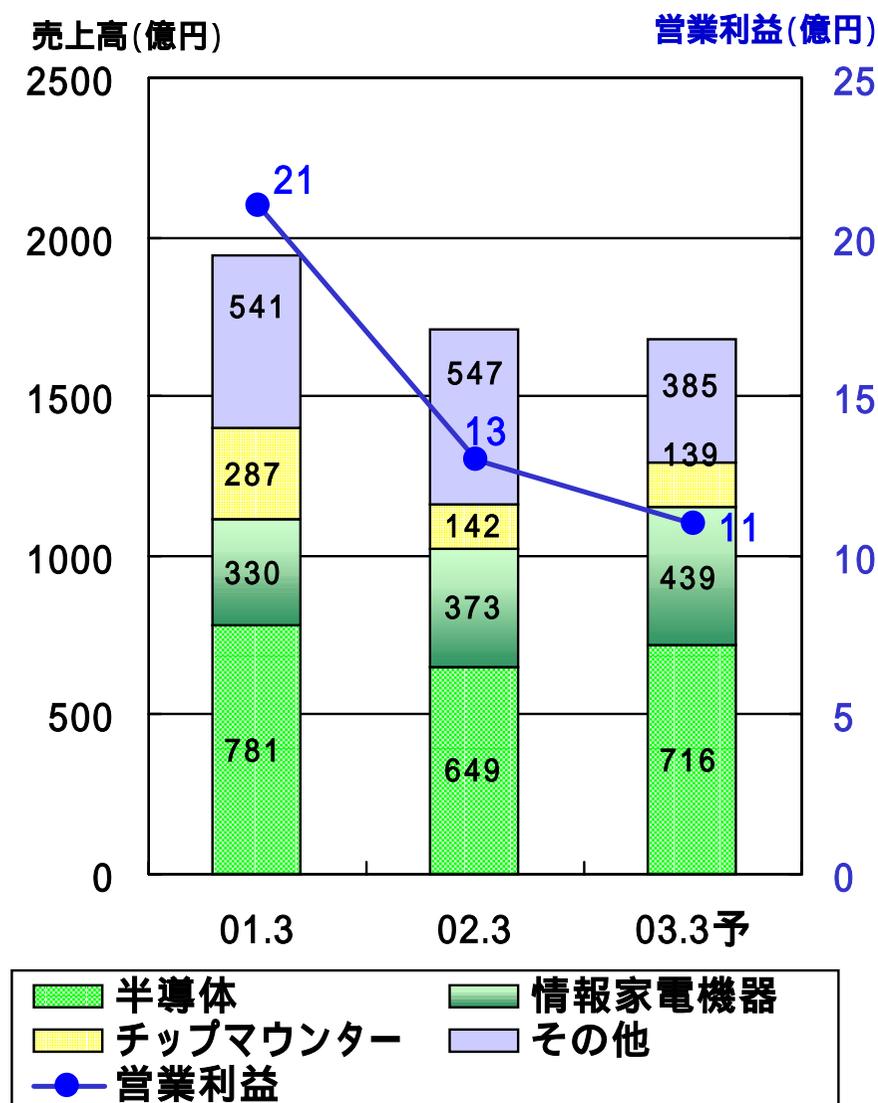
オプトエレクトロニクス(OE)部品の回復により、03.3期は増益を目指す



1. OE部品の一部である液晶プロジェクター用光学部品は、デジタルテレビの普及等から大型映像デバイスに活気が生まれ、65億円から69億円への微増を見込む
2. OE部品の一部である光メディア部材は、CD-R用アルコール等の増加により38億円から67億円に倍増を予想
3. シリコンウェーハは、半導体市場の回復に伴い260億円から288億円と11%の増加を見込む
4. 営業利益は、相対的に高付加価値製品であるOE部品の回復により増益を見込む

< 情報エレクトロニクス >

半導体に回復の兆し、情報家電機器が引き続き好調



1. 半導体は、需要が回復し、売上高 649 億円から 716 億円へ 10% の増加を見込む
2. 情報家電機器は、シアーズ社向け TV・VTR 等の拡販や米国スプリント社向け携帯電話の新規投入により、373 億円から 439 億円へ 18% の増加を見込む
3. チップマウンターは、情報通信市場が低迷しているものの、中国向け取引への注力により売上高は横ばいを維持
4. 営業利益は、半導体の本格回復時期での上昇に期待

< 連結子会社 >

日立計測器サービスの高収益経営が業績に貢献

【主要3社】

(億円、%)

連結子会社	決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	総資産	自己資本	出資比率	業務内容・業績動向
日立 計測器サービス	01.3	330	17	17	4	207	71	100	当社の電子デバイスシステム ライフサイエンス製品等の保守サービス、技術コンサルティング、部品の販売
	02.3	352	20	20	11	237	87		
	03.3予	395	21	21	12	-	-		
アメリカ日立 ハイテクノロジーズ (注1)	01.3	1,157	15	19	9	293	50	53	当社の電子デバイスシステム ライフサイエンス 情報エレクトロニクス製品の米国における販売 サービス援助
	02.3	929	4	6	3	251	50		
	03.3予	1,357	9	9	6	-	-		
日立 サイエンスシステムズ (注2)	01.3	-	-	-	-	-	-	100	ライフサイエンスのうち汎用品の開発・製造 分析業務の受託ビジネス 市場は安定し、受託は比較的利益率が高いため 安定した利益を出している
	02.3	90	1	1	1	104	49		
	03.3予	184	4	4	2	-	-		

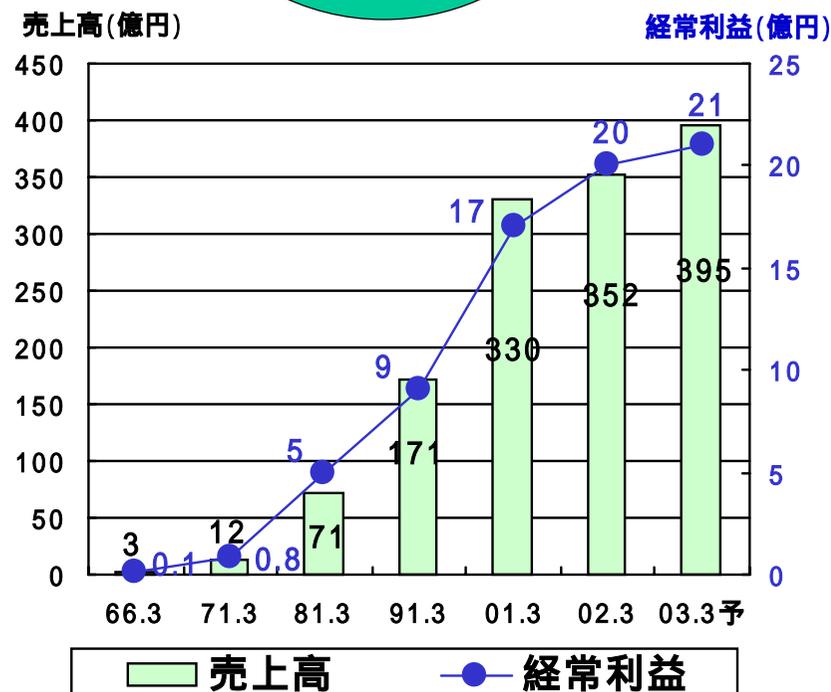
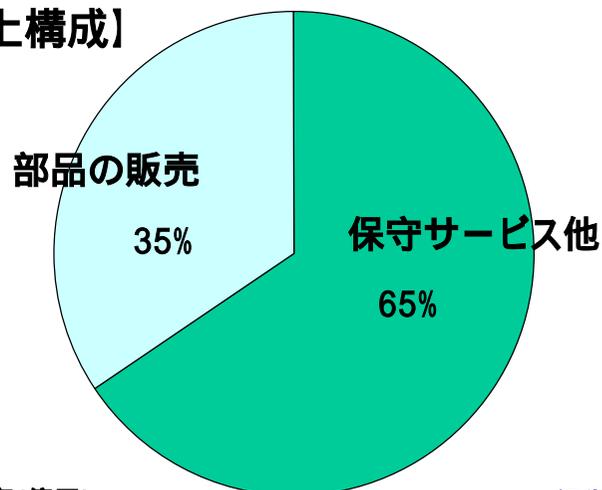
(注1) 2002年4月1日、アメリカ日製産業、日立アメリカの半導体製造装置部門、及び日立インストルメンツの事業を統合し、新会社を設立

(注2) 2001年10月1日、事業統合により、02.3期から連結対象

< 日立計測器サービス [連結子会社] >

保守・サービス業務により、安定的収益を確保

【売上構成】



1. 業務内容

当社の電子デバイスシステム、ライフサイエンス製品の国内及び海外(中国・米国を除く)における保守サービス、部品の販売

2. 特徴

当社の電子デバイスシステム、ライフサイエンス製品の累積出荷台数がサービス売上に直結するため、創業以来、利益が安定しかつ拡大

顧客密着型ビジネスのため、顧客ニーズ、引合いを速やかに察知し開発、営業部門内にフィードバック

3. 今後の展開

装置の稼動・障害情報を提供するASPサービスなどのソリューション・サービスの拡大

中国・米国でのサービス体制確立や部品のワールドワイドな一元管理等のグローバルサービス展開

DNA解析サービスを核としたバイオビジネスの展開

クローズアップ

. 主要製品説明

< 設備投資等の動向 >

	0 2 . 3	0 3 . 3 予
設備投資	5 2 億円	7 3 億円
減価償却費	4 9 億円	5 7 億円
研究開発費	3 4 億円	9 2 億円

・セグメント別戦略説明

<ライフサイエンス>【検体検査装置】写真

・主要製品説明

<測長SEMの概要>

<電子線描画装置(EB)の概要>

<エッチング装置の概要>

<検体検査装置の概要>

* データ容量が膨大なため、【配信用】では削除しています。
詳細については、下記担当までお問合せください。

【担当】

人事総務本部 総務部広報課 木村 健芳

TEL:03-3504-5456 FAX:03-3504-7123

E-mail:kimura-takeyoshi@nst.hitachi-hitec.com